

嶋の大長寺紙治小春の墓へ参つて片町へ出て、猫間川は鮒釣鯉釣り、面白そうに釣つて居るが魚がかゝらん、紅摺提灯の屋形船が、吹けや川風上れや簾と、船は東へさして追々やつて行く。四月一日から八日まで、野崎の観音さんへ御参詣で、陸と船との口争ひ、京橋を南へ渡つて馬場へ來ると仰山紙鳶を上げて居る。今日は初午やと、八軒家から天神橋へ來て見ると、川一面の船、天神祭、久敷振りに人形船が出るといふので、近年にない非常な賑ひ、江戸の兩國の川開きも是れは追着かぬ。烟火が澤山あがつてます。松屋町をば南へ行きまして、高津の表門まで來ますと、人に押されて到當梅ヶ辻まで來ました。この頃は菊の盛りといふので庭へ這入つて見ると、菊の作物、色々様々な細工物の菊を見て、南へ生國魂神社、今日は鎗流馬やと云ふので、茶店へ腰を掛けて是を見て、此處まで來たのや依つて、隆專寺の枝垂櫻を見ようか、最う櫻も遅から

うか。高津の湯豆腐屋で一盞飲んで居ると、雪が霏々降つて來た。ア、雪景色も好いが、と表へ出て舞臺へ來て見ると、高き臺に登りて見れば烟立つ、民の竈はにぎはひにけり、今や市中は銀世界にならうと云ふ雪景色、ブラ／＼と三下り半の阪を降りて來ると、鳥居市兵衛といふ黒焼屋、その前を通つて西の辻をば南へ曲ると吉助の牡丹が眞盛り、西え取つて來ると二ツ井戸、道頓堀は、いづれも二の變りと云ふので、角の芝居、中の芝居は顔見世といふ。積物幟甚い人氣で、浪花座の前へ來て見ると二の替り、法善寺の金毘羅さんへ行て見ると、今日は金毘羅祭り、活花が飾つてある。その他色々造り物、中筋をば橋筋へ出ると、幫間が赤い襦袢に赤い股引、緋縮緬の願卷をして、駕籠の中には藝子舞子が乗つて寶惠駕籠々々、さては十日戎や、南へさして行くと、吉兆の、吉兆の毎年の吉兆の小寶、本家の縫忠は此處で、押すな／＼、布袋は

んが破れると喧ましよう云ふてる、参詣をして北え西へ行くと木津の大黒さん、今日は甲子やと云ふて賑はふので、お参りとして土産に燈心を買つて戻つて來るとモシ渡邊の太鼓が久し振りに飾つてあると云ふので、何しろ日本一の太鼓や、立派なもので、朱檀、黒檀、鐵刀木、金物は金と銀、それを見て難波へ戻ると、今日は難波の綱引やと鬱金で願卷をしてるものも有り、紅木綿の願卷をしてるものも有り綱を引いて居る。それを見て、赤手拭の稻荷さんへ出て、幸橋を眞直に北に取て高臺橋を渡つて北へ行くと、今日は八日日なり十夜といふので、堀江の市中は植木店が出てる。阿彌陀池へ参つて、宇和島橋を北へ渡り新町へ這入ると、皆な茶屋は残らず幕を張つて、今日は大夫の道中ぢやといふ。そりや一つ見て行かうと、塀の側から九軒の櫻は夜櫻で夜に入ると雪洞に火が點いて、新町橋を北へ行くと地藏祭で、瀬戸物町では造り物の人形が出来てる。船場へ渡ると、稻荷祭と御靈祭と座摩祭、銘々

長い簾をかけ幕を張つて活花がして有る。博勞町へ出ると、向ふから地車がチキチンコンコン、オウタ／＼とやつて來る。凍氷々々、南の御堂さん北の御堂さんには、本講はん、小橋屋の所から佐野屋橋、彼の邊は恵比須鯛を飾つて、今日は誓文拂やと云ふので、ハ、ンそうか。それでは内へ歸つても、女や子供は出てる依るやろうと思ふて宅へ歸つてきましたら、不圖目が覺めました。ところへ貴郎がお越になりましたんや」

「ヘエー、そりやア一體なんや」

「これは、夢だすがナ」

「長たらしい夢を見たんやな、何んや春かと思ふと秋になり、夏かと思ふと春、春か知らんと思ふと冬になり一年の事をばお前皆夢に見たんや、一體何處で寝てたんや」

「ヘエ奥と臺所の取合で、敷居（四季）を枕に寝てました」